

事例

サツマイモの栽培を通して、育てる大切さに気付き、感謝の気持ちを持つ
～食育活動の中で、探究心を培う～幼保連携型認定こども園 もとそうじや 元総社幼稚園（群馬県）

元総社幼稚園では、自然とのふれあいを大切にした食育活動に取り組んでいます。園には、こどもたちがサツマイモやジャガイモの栽培から収穫までを体験できる専用の農園があり、毎年6月には4種類のサツマイモ（紅はるか、紅あずま、シルクスイート、ふくむらさき）を苗から植え付けを行います。また、収穫までの期間には畑の様子を観察し、秋にはサツマイモ掘りを行い、収穫されたサツマイモを園で調理し、給食として提供しています。

令和3（2021）年度に、こどもたちにサツマイモの種類について話したところ、「しっとり系のサツマイモが食べてみたい。」「ねっとり系のサツマイモが食べてみたい。」等の声がありました。そこで、サツマイモの見た目や味の違いを感じることで生長過程にも興味を持てるよう、スイートポテトや焼き芋等、給食の献立を工夫してこどもたちに提供しました。

令和3（2021）年度にこどもたちが興味を持った様子を踏まえ、令和4（2022）年度は食べてみたいサツマイモ、育ててみたいサツマイモの種類をこどもたちと一緒に選ぶことから始めました。また、サツマイモを育てるだけでなく、サツマイモを洗う活動を取り入れ、太さや長さ、重さを測定、観察して記録しました。

それぞれのサツマイモを食べ比べた園児は、「紅はるかは、切ると白いよ。紅あずまは黄色いよ。」と色の違いに気付き、「紅はるかが甘くておいしい。」「シルクスイートはしっとりしている。」「ふくむらさきは色が違う。」といった感想も聞かれました。いろいろな種類のサツマイモを植え、サツマイモの品種間の比較を行ったことで、こどもたちに観察する力が養われ「なぜ」という不思議に思う気持ちが芽生えました。さらに、サツマイモを通して調べたり、考えたり、話し合ったりといった、生きるために必要な意欲、探究心等がこどもたちの中に、育まれていきました。

今後も、これまでの食育活動を継続し、こどもたちの声を更に聞いて対話を続けながら、観察力を伸ばす食育の取組を実践していきたいと考えています。



サツマイモ掘りの様子



サツマイモを観察する様子